

身近な公園の役割を知ろう

防災機能を備えた「雑司が谷公園」

高齢者から子供まで、世代を問わず利用する公共の場として「公園」は昔から人々に親しまれています。豊島区では近年、新しい公園が次々にオープンし、防災とコミュニティ両方の機能を持った場所として注目を集めています。今回は「雑司が谷公園」の設計を担当した建築士、小野加瑞輝氏にご協力頂き、普段は目にする事ができない防災施設としての設備を見学することができましたので、ご紹介します。

(とっぴい編集部)

元々雑司が谷地区には、3つの小学校（高田小、雑司谷小、日出小）と雑司谷中学校がありました。それらはいずれも地域のコミュニティの中心であり、また救援センターに指定されていて防災の拠点でもありましたが、豊島区では児童生徒の減少を受けて、区内の小中学校の統廃合を進めることとなりました。学校が無くなるということは、防災の拠点も減少します。そこで、高田小跡地を防災公園化することは住民の願いでもありました。

丘の上テラス外観

害時にも区民の拠り所になる公園として誕生しました。本誌110号の『みんなの選択』でも取り上げましたが、この公園は「ボールひろば」が特徴です。ボール遊びができる施設がこの周辺にはなく、フットサルやテニスなどができることでも人気です。公園内にはかまどベンチや深井戸、ソーラー照明などが設置され、いざという時に備えています。

「丘の上テラス」内部の防災設備



防災備蓄倉庫
倉庫には非常用食料（アルファ米や乾パン、ビスケットなど）が積まれています。奥の部屋には太陽電池のバッテリーがあります。



災害時用トイレ
天井は太陽光照明で太陽の光を集めて照らしています。トイレの水は全て雨水を貯水タンクに貯めておいたものを使用しています。

「丘の上テラス」内部の防災設備



貯水タンクから雨水を送るパイプ
地下は大きな貯水タンクになっていて、そこに雨水を貯めています。雨水貯留槽には160t。そのさらに下には防火水槽として100tの消防用水槽があります。



ソーラー発電（バッテリー）
屋根のソーラーパネルで発電された電池を蓄電しています。非常時にはこれを電源として使用できます。

「雑司が谷公園」全体図



雑司が谷は古くからの街並みが残り、豊島区の中でもノスタルジックな場所としてメディアにも多く取り上げられる場所ですが、東京都「木密地域不燃化10年プロジェクト」の不燃化特区の指定を受けています。そこで地域の皆さんが自分たちで防災の意識を高め、施設の維持・管理を続けており、防災とまちづくりについての検討会が定期的に行われています。

検討会などの情報は「ぞうしがやまづくり」のwebsiteで知ることができます。▼

